

## 平成 21 年度 やずや 食と健康助成研究 報告書研究要旨

1. 研究課題名 肥満妊婦における適切な体重増加に関する検討
2. 主任研究者 入江 聖子 (イリユ セイコ) 国立成育医療研究センター妊娠と薬情報センター医師
3. 共同研究者  
荒田 尚子 (アラタ ナオコ) 国立成育医療研究センター 母性医療診療部代謝内分泌内科医長  
池谷 美樹 (イケヤ ミキ) 国立成育医療研究センター 周産期診療部産科医師  
村島 温子 (ムラシマ アツコ) 国立成育医療研究センター 母性医療診療部部長  
高橋 美恵子 (タカハシ ミエコ) 国立成育医療研究センター 栄養管理室室長

研究要旨 (研究要旨を 200～300 文字程度でご記入ください。)

母児合併症を予防し、児が適切に成長する (Appropriate for date (AFD)児) ための肥満妊婦の至適体重増加量を前向きに検討した。2008 年 12 月～2011 年 9 月までの 20 週までに初診し、問診票を記入した単胎妊婦で胎児異常、妊娠 14 週までの流産例を除いた 1847 症例のうち肥満例 104 例 (5.6%) を対象に調査を実施した。平均の妊娠中体重増加量は 5.5 ± 5.2kg、新生児の出生時体重は 2929 ± 682g であった。体重増加量別の検討では、SGA は <5kg 群で 13%、LGA は 7kg < 群で 20%以上と高率に認められた。周産期合併症は、妊娠高血圧症候群を 12%、妊娠糖尿病を 20%に合併し、緊急帝王切開率は 21%であったが、体重増加の群による傾向は認められなかった。以上のことから、肥満妊婦の体重増加は 5-7 kg が好ましいと考えられた。